

令和7年1月27日

伊豆市長 菊地 豊 様
伊豆市議会議員 下山 祥二 様
伊豆市教育長 鈴木 洋一 様

伊豆市監査委員 渡邊 光由
伊豆市監査委員 青木 靖

定期監査の結果について（報告）

地方自治法第199条第4項の規定に基づき定期監査を実施したので、その結果を同条第9項の規定により、次のとおり報告します。

記

- 1 監査の期日 令和7年1月16日（木）
- 2 監査の対象 教育部 学校教育課、社会教育課
- 3 監査の方法
提出を求めた監査資料等に基づき、各担当課の説明を受けた後、事情聴取及び関係書類の審査を行った。
- 4 監査の結果
監査を実施した範囲においては、関係法令等に準拠して執行されており、おおむね適正に処理されているものと認めた。
- 5 監査の概要、意見
対象部課の監査結果の概要及び意見は、次のとおりである。

【教育部】

(1) 学校教育課

- ① 放課後児童クラブは、施設数に変わりはなく、市内8か所で運営されている。修善寺南小学校区内は希望者が多く、学校内の「こひつじ園」と、こども園あゆのさと内に第2放課後児童クラブ「あゆっこ」を開設していて、定員を上回っているが受入れできている。令和6年12月現在の全体の在籍数は173人で、待機児童はいない。本年度の委託料は、昨年度に比べ委託料が増額しているが、維持管理経費の増額が影響しているためである。就労する保護者支援でもあるので、人件費など経費はかかると思うが、居場所

の活用を含め今後も待機児童がいない状況を継続していただきたい。

- ② 就学援助費の認定状況については、次のとおりの認定人数を確認した。

12月末現在 (単位:人)

学校 \ 年度	令和5年度	令和6年度	対前年度
小学校(うち要保護数)	59(0)	50(0)	△9(0)
中学校(うち要保護数)	52(1)	48(1)	△4(0)
義務教育(うち要保護数)	9(1)	10(1)	1(0)
合計	120(2)	108(2)	△12(0)

児童・生徒の絶対数は減少しており、認定件数も減少しているが、令和6年度は義務教育学校が増加となっている。今後も就学児童生徒の経済的理由による就学困難者の把握に努め、認定に漏れのないよう引き続き対応願います。また、他の児童生徒と隔たりなく、安心して学校生活を送ることができる環境づくりに引き続き努めていただきたい。

- ③ 学校支援員の活動状況では、次のような雇用状況である。(単位:人)

学校 \ 年度	令和5年度	令和6年度	対前年度
小学校	27	25	△2
中学校	11	11	0
義務教育学校	4	4	0
合計	42	40	△2

昨年度に比べ2人減員となっているのは、修善寺南小学校のこたばの教室担当支援員が子育て支援課へ配置換えになったことと、天城中学校で令和5年度に短時間勤務者が2名退職し、6年度は29時間勤務者1名にしたことなどによる。特別支援、発達障害や学習が劣る児童の補助業務を担当する学校支援委員のほか、パソコン操作、ネット通信でのモラル指導、各学校のホームページ更新などを行う情報支援員が勤務している。

支援員の充実により、すべての児童、生徒が学習や学校生活を落ち着いてできる環境ができていて、大変心強く感じます。引き続き、この体制の維持に努めていただきたい。

- ④ 土肥小中一貫校の運営状況について、令和5年1月現在の生徒数は93人で、令和5年度の115人から22名減となり、開校以来、初めて前年度生徒数を上回った昨年度に比べ開校以来100人を下回った。

「義務教育9年間を通して子どもを育てる」を学校経営の重点としている。1年生から4年生を「初等部」、5年生から7年生を「中等部」8年生、9年生を「高等部」と位置づけ「4.3.2」制をとっており、初等部では「学びの定着期」、中等部では「学びの充実期」、高等部では「学びの発展期」と位置付けている。初等部は、ほとんどの教科を担当が受け持つ45分授業で、中等部・高等部は教科担任制で50分授業となっている。総合的な学習の時間は「とびうお学習」と題し、初等部の「楽しみながら体験」から、

中等部の「体験しながら知る」に、そして高等部の「体験しながら考える」に深化していく。「とびうお学習」では、土肥の現状と未来を創造することを目標にしている。土肥小中一貫校は、土肥こども園、伊豆総合高校土肥分校と隣接していることから、積極的に交流活動も行っている。また、児童生徒が地域の行事やイベントに参加したり、東京大学の学生と交流活動を行ったりしている。

過疎化による小中一貫校の教育成果は、引き続き全国的にも注目されていると思います。そして、いよいよ4月には伊豆中学校が開校し、学校間での交流を行っていくと思います。また、小規模特認校になり、他地域からの入学があると思いますので、活用やその反応があることを期待します。今後も地域に愛され、地域密着型の学校として、土肥こども園の園児や伊豆総合高校土肥分校の生徒たちとの交流、さらに様々な地域行事への参加を通じて学べる地域住民との交流で、子どもたちの学ぶ意欲を高める学習が強まることを期待します。

- ⑤ 各委員・相談員の活動について、音楽支援員は、土肥小中一貫校には音楽教諭が配置されているため、義務教育学校での活動はない。学校支援員は、小学校29人、中学校10人、義務教育学校5人で、昨年度より小学校は4人増、中学校と一貫校でそれぞれ1人減となった。また、部活動支援員が今年度新規に10名活動しているが、教員のOBは少ないとのこと。その他の相談員等は、昨年度と変わりはない。
- ⑥ いじめ問題対策の状況について、市内いじめの重篤なケースの報告はない。昨年度と今年度の同時期の件数比較では、今年度は若干減少がみられる。いじめの態様で、「PCや携帯で誹謗中傷」の件数が少ないように思うが、報告されている件数は氷山の一角ととらえているとのこと。悪ふざけや冷やかし、けんかと軽く捉えていても、後に重大事態と判明した事例は少なくないと聞いている。今後、些細なことでも報告してもらうことで、件数は増加する可能性はあるが、早期対応することで重大事態とならないように今後も注視していただきたい。人権教育や相手を思いやる心を育てる指導を継続していただき、犯罪に繋がるようなことのないよう、未然に防ぎ、守り、上手に救い上げていただきたい。家庭の状況については、民生児童委員、子育て支援課、社会福祉協議会、地域などの連携で、ケースバイケースでの解決の道を模索していただき、安心した通学が継続できる状況になるよう気配りをしていただきたい。
- ⑦ 教職員の健康管理状況では、令和5年度の定期健康診断結果について、一般健診69人、指定年齢健診25人は受診済みだが、人間ドッグはまだ終了していないため結果は出ていない。令和5年度の実診率は100%だったとのこと。ストレスチェックは、市立学校の教職員159人が受診した。休職している職員もいるが、伊豆市の人数は少ないほうのことである。教職員の働き方改革はまだ途上であり、長時間勤務の常態化は解決できてはいないので、健康診断等をしっかり受診し、教職員の心身の健康につながるよう管理していただくことをお願いします。
- ⑧ 通学費補助金の交付状況は、通学距離が2キロメートルを超える小中学生・義務教育学生の保護者に対して通学補助金を交付している。本年度の補助対象者は小学生保護者

321名、中学生保護者303名、義務教育学校（小）25名、義務教育学校（中）12名で、近隣他市町に比べ、手厚い支援制度である。昨年度に比べ対象数は減少したが、バス運賃の値上げにより補助金額は300万円程度増加している。周知方法について、対象にならない人への通知や、兄弟間で同じ通知が複数届くので、広報の仕方を考えたいとのこと。

- ⑨ 新中学校建設の進捗状況については、本年4月の開校に向け本体工事が完了した。野球・陸上競技用とサッカー場の広々としたグラウンドが完成した。

通学に関して、修善寺駅で乗り換えが必要な生徒がいる。自転車は推奨ルートがあり、バスダイヤは1月末に決定する。いよいよ開校が間近になってきて、子どもたちがすばらしい環境の中で勉強や部活をがんばることができる、そんな姿を思い描きます。待ちに待った伊豆中学校の開校を期待しています。

- ⑩ 児童待合所整備事業は、令和6年度は中伊豆小学校、修善寺南小学校、天城小学校、修善寺東小学校、土肥小中一貫校で実施をしている。児童待合所は放課後の居場所で、放課後児童クラブと異なり無料で、利用時間も下校時から午後4時までである。給食がない日や、水曜日以外の日に開所している。利用児童数はその日により変動もあるようだが、下校時のバスを待つ時間等を有効に利用できる事業なので、うまく利用して、保護者の就業支援等につなげていただきたいと思います。またICT学習支援を展開し、ITコンテンツやタイピングを活用したミニイベントを企画し、8回実施したとのこと。今後も有効的な事業展開を期待します。また、修善寺南小学校は、夏休み期間の開所を実施した。今年度から開所した学校もあり、居場所の利用を活用できるよう、アナウンスをしていただきたいと思います。

- ⑪ 外国語指導助手派遣事業は、7名のALTが市内保育園・こども園から中学校(義務教育学校含む)に派遣されている。実践的な指導により、子どもたちの英語の「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の指導が展開され、中学校では、英語弁論大会出場者へのより高度な指導や、英検の面接受験用の練習を放課後などに実施している。ALTの指導により、コミュニケーション力の向上やヒアリングの向上がみられるとのことなので、子どもたちの英語力がより向上することを期待します。

- ⑫ 学びの探求向上事業は、講話講演、英語教室、伊豆楽校関連事業、ICT学習支援を行っている。講話講演は署名人を招いて講演し、英語教室はお菓子を作りを楽しみながら楽しく英語に触れる親子英語教室、伊豆楽校は、化学実験の体験やジオ教室などを開催し、ICT学習支援はこども園ICT学習支援、小学生向けプログラミング教室などを行っている。今後も各学年での論理的思考を養い、高校での「情報1」につながる学びを円滑に進められる力の育成につながるような教育となるよう期待します。

- ⑬ GIGA推進事業児童生徒に一人ひとり端末を整備し、ICTを基盤とした教育の質と機会を向上させることを目的とし、授業では調べ学習や意見交換やプレゼンテーションを行い、協働的な学習を促進している。生徒には持ち帰りを推奨し、いつでもどこでも活用できる道具とすることで、情報活用能力の向上を図っている。令和6年度全国学

力・学習状況調査のうち、ICT活用に関連した質問事項の小・中別伊豆市と全国の比較では、ICT機器の活用についての質問で、5年生から中学1・2年までの学習において、伊豆市は小・中ともに全国より機器の活用率が高いことが分かった。

質問項目の結果からも子どもたちにICTの活用が浸透していることが伺える。引き続き、目的に沿って情報活用能力の育成や学ぶ力が伸びるように努めていただきたい。

- ⑭ 中伊豆小学校移転検討事業は、本年度基本設計、現中伊豆中学校解体設計、境界測量を行っている。令和7年度以降、実施設計、校舎解体、新校舎建築、引っ越し等、令和10年4月開校を予定し進めている。

本年度末で閉校となる中伊豆中学校の跡に中伊豆小学校の移転が進められ、工期が長くなる懸念はあるものの、中伊豆地区の子どもたちの学習する環境が、計画どおりに整うことを期待します。

(2) 社会教育課

- ① 文化財保護事業は、地元で古くから伝わる文書などを整理することで、往時の習俗や生活を洗い出し、郷土史資料の一助とするもので、文化財行政に関わる事項の審議、郷土資料の整理・収集、地元文化財の活用にも努めている。郷土資料の整理・収集は、古文書や民具などの郷土資料を収集し、目録を作成して整理するが、令和6年は古文書や民具等が市内外から2,808点が寄贈の予定とのこと。

資料の数が膨大で、整理に時間を要し大変な作業と思う。また、国指定史跡の草刈りなどを市が担っているなど、経費も要している。文化財保護は専門職の判断や、目録作成まで時間もかかりますが、貴重な文化財の保護に努めていただきたい。

- ② 美術館建設推進事業では、昨年度、複合施設整備の検討のため調査業務を実施し、応募のあった事業者にはヒアリング調査を行った結果、6社から関心表明があり、そのうち1社は事業主体として参画意欲があることが判明した。今後は、その1社を交渉相手として事業を進めるべきか、さまざまな観点からの課題や可能性を判断材料とするため、庁内検討会を立ち上げて進めていくとのこと。

美術品を展示する施設を検討するための経費は毎年積み上がっている。美術品を良好な状態で保管して維持していくことは、所有している自治体としての責務なので維持経費をかけるのはよいが、できるだけ早く展示施設建設を方向付けられるように希望します。

- ③ いずっ子健全育成事業は、小学校・義務教育学校の4年生から6年生に対する、愛郷心を育む教育として「ふるさと学級」を実施し、豊かな自然、文化に触れる場や伊豆市の特徴的な産業を知る機会を提供している。本年度の申込者は71名で、8回の予定で開催している。また、健全育成に関する会議・大会等の実施と、家庭教育講座を実施しており、家庭教育講座は44組の家庭が参加している。

この事業はとても大切な事業と考えますので、少数の子どもになっても継続していただき、健全育成事業を通じて豊かな人間性を育む教育が充実していくことを希望します。

- ④ 社会体育振興事業は、スポーツ推進員との連携による教室、イベントの実施などを行うなど、幅広い世代の市民が生涯にわたり気軽にスポーツに親しめる場を創っている。また、スポーツ団体へ補助金を交付するなどして、スポーツ人口の増加、心身の健康増進、生涯学習推進を図り、元気に幸せで豊かな人や地域づくりに寄与している。

社会体育の事業は、市民の健康維持や体力向上となるものです。多くの市民が参加できるようにするため、工夫して進めていただくようお願いします。

- ⑤ 社会教育課が所管する施設管理は、社会教育施設と社会体育施設がある。老朽化が進んでいる施設が多く、補修等を施しながら使用している。

狩野川記念公園魅力化事業は、広場全体の改修を行い、本年度は休憩用のウッドデッキや芝生広場を整備した。遊具についても7種類更新し、そのうち障がいのある方も使える遊具を3種類整備した。本年3月にリニューアルオープンの予定とのこと。

中伊豆室内温水プールは、長寿命化改修・整備計画により大規模改修工事を行い、休館となっている。1月末には完成の予定で、その後開館の準備を進め、4月1日にリニューアルオープンの予定である。4月1日からは、(有)伊豆スイムサポートが指定管理者として、5年間施設管理と運營業務を行うとのこと。

狩野川記念公園と中伊豆室内温水プールは大規模な改修を行い、市民が利用しやすくなると思うが、他に多くの施設を管理しており、老朽化も進んでいるので、長寿命化計画に沿って市民が使いやすい施設を維持していただくようお願いします。

また、公共施設再配置を検証する観点から、各施設の利用状況は、延べ人数ではなく実人数を把握できるようにすると良いと思います。

- ⑥ 自治体 DX 推進事業の状況は、公共施設予約について新しいシステムを導入し、利用者及び職員がより利便性の高いシステムを運用するものである。31 の施設の予約を新システムで運用管理をする。

電子錠を導入している施設もあり、2月からはオンライン手続きが開始されることで、施設予約や鍵の管理など、DXを推進することにより、市民はより便利に、職員の業務管理もよりやりやすくなるなど、みんなが分かりやすく、また、使いやすくなることを期待します。

- ⑦ 図書館(市内合計)の来館者数及び図書の貸出し状況(4~11月分比較)は、次のとおり。

項目	来館者数	貸出冊数
令和6年度	42,364人	80,791冊
令和5年度	43,529人	76,371冊
増減	△1,165人	4,420冊
前年比	97.3%	105.8%

昨年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行で、来館者数は11月末現在の比較が前年より5千人以上増加したが、本年度は同時点で千人以上減少した。貸し出し数においては、こども園や放課後児童クラブへ4,800冊ほど児童書の団体貸し出しを行い、

全体数としても増加となった。

図書館においても、多くの人々が来館するというより、同じ人が何度も利用しているように感じますので、実人数が分かるようにできるとよいと思います。また、時代のながれに伴い、書籍の電子化が進んでいるようですが、本より経費がかかり、現実的ではないようです。より多くの市民に読書の機会を設けるための政策に、引き続き期待します。

- ⑧ 図書館講座・教室の開設状況は、令和6年度開催の60講座に参加人数10,363人(12月末現在)で、昨年度より3講座多く、参加人数は倍以上となった。

ブックスタート事業は、子育て支援課が実施する「7ヵ月児童健康相談日」の会場に図書館職員が出向き、図書館職員から保護者と赤ちゃんに絵本の読み聞かせの大切さを伝えながら、絵本やお話会スタンプカードなど9品目を配布している。令和6年度は12月末現在の対象者63人のうち、53人に配布をした。

まちづくりの拠点として、子どもから高齢者までが交流し語り合う、そのような図書館施設となることを切に希望します。ブックスタートは、本の大切さ、読み聞かせの大切さを感じてもらい、子どもと一緒に図書館を利用する機会を増やしていただくよう希望します。

ブックスタートの配布状況は次のとおり。

※12月末現在

年 度	対象者	配布人数	配布率
令和5年度	63人	45人	74.4%
令和6年度	63人	53人	84.1%